

## 推薦する取り組み

## 園館名

お金も労力も惜しまない、ゾウ舎のエンリッチメント

札幌市円山動物園

## 推薦理由

2018年9月に巨大な新施設「ゾウ舎」が完成し、現在♂1♀3の4頭のアジアゾウ(2018年11月にミャンマーから導入)が暮らしています。欧米の先進的な動物園の事例を参考に、ゾウを群れで、安全に、健康かつ幸せに飼育できるような施設になっています。

寒冷地の札幌では、ゾウは1年の大半を屋内で飼育せざるを得ません。屋内で複数頭を飼育できるよう、屋内施設はとて広く、充実しています。特筆すべきは、屋内の床面には1メートル以上の砂が敷かれていることで、これによりゾウの足への負担や、温度・湿度の管理の点でも、従来のコンクリートの床よりもはるかに優れた施設だといえそうです。砂は交換する必要はなく、定期的に水を撒き、糞などの目立つ汚れを適宜取り除くことで、「生きた」状態になっているそうです。また、屋内にはプールもあり、年中水浴びをすることもできます。

お金のかかった施設が優れているだけでなく、飼育担当者による日々の努力も相当なものだと思います。複数名のチームで飼育に従事しており、毎日、遊具の整備や採食エンリッチメント(地面に穴を掘って埋めたり、さまざまな場所に隠したり、天井から吊ったり...)にかなり時間をかけておられるようです。群れで暮らすことと、さまざまなエンリッチメントにより、このゾウでは常同行動などを見たことがありません。「これからの時代にゾウを飼育するのだったら、これくらいやらなきゃいけないんだなあ」と、いち来園者として、思いました。

なお、飼育担当者の安全を確保するという点も最近のゾウの飼育では重要視されていて、上述のチーム制での飼育にくわえ、準間接飼育でトレーニングをするための柵も整備されています。

また、新施設の設計やデザインは札幌市立大学デザイン学部との連携もあるようで、見た目も良く、展示や教育の効果も期待できます。



屋内放飼場全景（おもにメスたちの群れが使う）とエンリッチメントの準備をする担当者



屋内プール



天井から吊り下げられた乾草

トレーニングのための柵と  
エンリッチメントの壁面

壁の向こうの見えるない餌を、鼻を使って探索